

第2回湯沢・雄勝地域医療構想調整会議 議事要旨

1 日 時 令和7年3月11日（火） 午後6時から午後8時まで

2 場 所 オンライン会議

3 出席委員 委員13名中12名出席（代理出席者を含む。）

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
小野崎 圭 助	湯沢市雄勝郡医師会長（有床診療所代表）	今 野 渉	全国健康保険協会秋田支部企画総務グループ長
小松田 敦	雄勝中央病院長	佐々木 勝 司	特別養護老人ホーム「ホームサン・グリーンゆざわ」施設長
武 部 浩 一	佐藤病院 事務長	阿 部 真 美	湯沢市稲川・皆瀬地域包括支援センター所長
秋 野 一 尚	湯沢市・雄勝郡歯科医師会副会長	鈴 木 紀 子	湯沢市福祉保健部健康対策課長
海 野 哲 也	秋田県薬剤師会湯沢雄勝支部幹事	伊 藤 和 恵	羽後町健康福祉課長
小 野 洋 子	秋田県看護協会湯沢・雄勝地区	高 橋 弘 克	東成瀬村健康福祉課長

4 議事等

(1)協議事項

① 外来医療計画の推進について

【事務局】

（資料により説明）

【雄勝中央病院長】

- ・当地区は医師会を中心に、病診連携はうまくいっているのかなと思っている。
- ・一方で閉院するクリニックも出てきているので、病院は入院を優先するという考え方もあるが、やはり地域のクリニックの状況を見ながら病院もできる範囲で外来診療を行っていきたいと考えている。

【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・開業医が担っていない診療科があるほか、地域の診療だけではなく住民の健康診断という部分でも医師の偏在というのが問題になっている。
- ・県医師会の方で今後の健診のあり方について、各診療科の先生に派遣を依頼できないのかどうかというようなことを今後検討していかないと、地域の学校健診も含めた問題は大きくなっているなど思っている。
- ・なかなか紹介受診重点医療機関について、紹介が機能しなければなかなか難しいのが現実であり、平鹿や横手の病院にお願いできるかというとなかなかそれも難しい問題だと思うので、そこは今後の課題かなと思っている。

【湯沢市】

- ・市民の方から直接届いている意見はまずないが、先ほど小野崎会長がおっしゃった通り、なかなか診療科が少なくなっているというところは、様々な市民アンケートの中でも小児科が少ないといった声が出ている。

・学校健診の状況を見ても、耳鼻科の先生や眼科の先生も非常に高齢化している状況から、そこはすごく心配している状況である。

【羽後町】

・地域の医療についての質問というのは町政懇談会の場で各地区関心を持っておられる方が発言する場はあるが、おそらく近々町長選の講演会といえますか候補者同士のイベントがあり、その場でも医療と子供の件は大きな話題になるのではないかと考える。

【東成瀬村】

・現在はやはり診療所と病院の連携というのは比較的できているのかなと個人的には考えている。

・ただやはり将来のことを考えると、人口の減少は免れないと思うので、その辺は少し不安なところではある。

・今後、住民の意見を聞く機会というのはまたあるかと思うので、その際にもいろいろと声を拾っていければと考えている。

②来年度以降の地域医療構想について

【事務局】

(資料により説明)

【湯沢市雄勝郡医師会長】

・発熱外来について、今年度はインフルエンザがかなり流行したということで、市立病院には1日150人も来たという話も聞くし、他の病院がパニックを起こしたことはよく知っているが、この地域で羽後町も含め東成瀬村も含めて、一般の診療所の先生に正月の開けていただくのは、なかなか難しい。

・この地区でも雄勝中央病院長と相談をさせていただいたが、今年度に関しては「4日間だけ頑張っていたいただければ我々も1月4日からやるので」ということで、やはり12月30日、31日、1日、2日、3日等の期間は雄勝中央病院にお願いせざるを得ないという状況だったので、本来であればそこを何とかしなければならなかったと考える。

・そこに例えば開業医の先生がお手伝いに行くようなことができればいいのかもしれない。そういった問題は今後もずっと続いていくと思うので、その辺は医師会としても考えたいと思う。感染症や発熱外来については医療計画には少し盛り込まなければいけないと考えている。

【雄勝中央病院長】

・病院とするとやはり発熱患者さんが70人近く来院していたということもあり、何らかの力が必要かなとは思っているが、どういうふうにするかというのはまた話し合っていきたいと思う。

- ・新興感染症については現在雄勝中央病院は感染症のベッドが4つあるが、新興感染症が起こった場合は、感染症ベッド数を増やすというようなことを話し合っている。
- ・やはりその発熱患者をどういうふうに振り分けるかというのは課題だと思う。

【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・この地区でも地域医療連携推進法人について少し考えないといけない。
- ・今後を見据えてこの地域の医療を守れるかどうか、ベッド数のコントロールだけではなくて、連携推進法人というものを考えた方がいいのではないかと個人的には思っている。
- ・しかし、連携推進法人をすることによるメリットデメリットについては、雄勝中央病院は厚生連で町立羽後病院は市町村の病院なので、なかなかそこは一筋縄ではいかないかと思うが、連携推進法人の話について県が主導でいろいろ講演をしてくれるので、そういうことも少し入れていただけるといいのかなと思う。
- ・横手市側で開業医の先生だけでの連携推進法人ができたが、ある程度病院が入らないとそこからの発展はなかなか難しいかと思う。
- ・この地区でも連携推進法人を立ち上げて、行政も含めて作るのか、法人だけなので病院等や個人をつなぐような法人ができれば本当はいいのだろうと思う。

【雄勝中央病院長】

- ・病院の機能を保つにはやはり医師の偏在を改善させるということが非常に重要になる。
- ・当院は小野崎先生も説明してくれたように、耳鼻科の先生や眼科の先生、産科の先生が少なく、あと小児科も少ないというところがあって、医師がいないことには色々な部分でカバーできないというところがある。
- ・秋田大学が今後、医局単位で医師の派遣をどうこうするというをやめて、学長を中心とした派遣の会議を持つというようなことは、県の方では認識されているのだろうか。

【県医務薬事課政策監】

- ・市内の院長先生が集まった会議でも、そういった会議の設置の動きはあると伺っていた。

【雄勝中央病院長】

- ・そうすると、病院単体でリクルート活動をするというのではなく、やはり県や行政の方とタッグを組んで、大学に常勤が少ない科について依頼するというのを一緒にやっていってもらえればいいのかと思っている。

(2)報告事項

①地域医療構想に係る医療機関の対応方針について

【事務局】

(資料により説明)

※委員からの意見なし

②病床数適正化支援事業について

【事務局】

(資料により説明)

【雄勝中央病院長】

- ・医療機関側はやはり継続して存在するためには病院の収支の改善、赤字幅をいかに縮めるかというのが非常に重要な問題だと思う。
- ・各市町村には公立病院と厚生連等の公的病院が位置付けられているが、いくら頑張っても赤字になるという病院は多い。それは病院の機能によって入院で1日いくら収入があるというのが決まってしまうので、今の雄勝中央病院の状況だと毎年3から4億の赤字という状況が続いている。
- ・それを公的病院ということであれば県としても何らかの対策を立ててもらえればいいのかと思うし、県議会等でもいろいろ議論があると思うが、それがこちらの希望である。
- ・看護師について、求人サイト等に登録して経由してくるので、必ず仲介手数料がかかるという状況が起こっている。
- ・その辺の実態も少し把握していただいて、少しでも利益が出るような状況を県の方でも確認していただければと思う。